最後に、もう面倒見きれんと、
そばに来た健ちゃんに高田はんを押しつけると
健ちゃん、喜んで、高田はんの手を取った。

高田はんがものすごい冷たい目で僕を見た。

健ちゃんは僕より上手なので、
もっとスピード出しそう。

一瞬、「あっ、しまった。」と僕は思った。

僕は、高田はんが怖がるのを楽しんでいた事に気付き、
悪いと思った。

一周、健ちゃんが高田はんをリードしたのを、
僕は、急いで、追いかけ、もう片方の高田はんの手をとり、
三人で、滑った。

それで、やっと、 高田はん、安心して、
すべり出した。

健ちゃんは、一心に前方を見て、
ものすごいスピードで引っぱっても
高田はんは、僕のほうを見て、笑っている。

僕も高田はんの顔を見て、笑って、ほっとした。

六時半まで、すべる。
日曜日で、アリーナは一杯だった。

84 女って、鋭いなあ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 370